



# 但馬国府・国分寺館ニュース

編集・発行

2013. 2

第32号

但馬国府・国分寺館  
Museum of Tajima Kokufu and Kokubunji

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町柿布 808  
TEL 0796-42-6111 FAX 0796-42-6112  
http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/



水鳥形埴輪の出土状況 池田古墳（兵庫県朝来市）／兵庫県立考古博物館写真提供



第6回特別展

## 鳥 — ヒトとトリの考古学 —

大空を自由に舞う鳥たち。私たちは、古来より鳥に大きな憧れをもっていました。例えば、『万葉集』には50種類ほどの鳥が詠われています。季節の移ろいを告げる渡り鳥には出会いと別れを、鳥の鳴き声には喜びや悲しみを重ね合わせることで、万葉人は鳥に人生の哀歓を託していたのです。また、弥生時代には銅鐸に鳥が描かれ、古墳時代には鳥の埴輪が作られるなど、人と鳥は多様に、そして豊かに関わってきたことが知られています。

今回の展覧会では、主に出土資料から古代の人と鳥との関係を探ります。人は鳥に何を願い、何を託していたのかを知るとともに、人と自然のあり方についても考えていただければ幸いです。

■会期 平成25年(2013)2月28日(木)～5月7日(火)

### ■ 展示協力機関・個人（50音順・敬称略）

朝来市埋蔵文化財センター いずし古代学習館 大阪府教育委員会（公財）大阪府文化財センター  
香美町教育委員会 倉吉博物館 コウノトリ湿地ネット 東京国立博物館 鳥取県埋蔵文化財センター 鳥取県立博物館 豊岡市コウノトリ共生課  
豊岡市立コウノトリ文化館 豊岡市立出土文化財管理センター 兵庫県立考古博物館 福知山市教育委員会 野洲市歴史民俗博物館 与謝野町教育委員会 米子市教育委員会  
池田征弘 石松 崇 岩田文章 岡戸哲紀 加藤晴彦 君嶋俊行 徳網克己 中島雄二 永谷隆夫 根鈴輝雄 東方仁史 三宅正浩 宮村良雄

## 弥生時代の鳥 —神聖なトリ—

縄文時代の遺跡からは多くの鳥類の骨が出土しますが、弥生時代になるとその量は極端に少なくなります。それは、稲作の開始とともに主食が米になり、狩猟の果たす役割が小さくなったことに原因があると考えられます。その代わりに、ニワトリなどの飼育が始まり、人と鳥との新たな関係が生まれました。

また、弥生時代には鳥を表現したさまざまな製品が作られるようになりました。鳥の絵が描かれた銅鐸のほか、鳥そのものをかたどった木製品・土製品も見つっています。これらの製品はいずれも日用品ではなく、まつりや儀礼に関連した道具と考えられます。そのため、鳥は単なる食料ではなく、儀礼の場で活躍する神聖な生き物としても捉えられていたのでしょう。



鳥の絵がスタンプされた土器  
中峰遺跡（鳥取県倉吉市）  
倉吉博物館写真提供

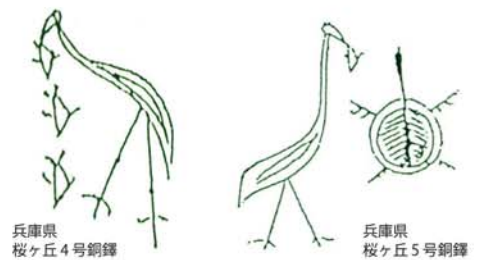
## 銅鐸に描かれた鳥—豊作を祈るトリ—

全国で500点ほど見つっている銅鐸のうち、約20点には鳥が描かれています。描かれた鳥は、<sup>くちばし</sup>嘴・<sup>くび</sup>頸・脚が長いという特徴から、コウノトリやサギの仲間と考えられています。コウノトリやサギなどの水鳥は、フナやドジョウをはじめ、水田の中にいる昆虫、カエルなどを食べます。田植えとともに水田にやって来るこれらの鳥たちは、稲の精霊と見なされていたと考えられています。

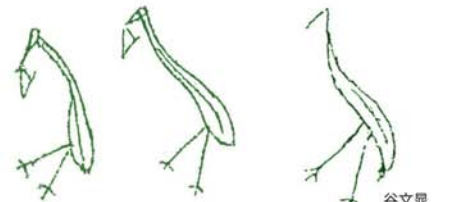
近年、大阪府にある池島・福万寺遺跡で、弥生時代の水田跡に残された鳥の足跡がコウノトリであることが分かり、弥生人とコウノトリは身近な関係だったことが分かりました。銅鐸に描かれた鳥は、稲作により人々が活動の中心を低湿地に移したことで、水辺で暮らす鳥と出会う機会が増えたことを示しているのです。



四区袈裟<sup>けさ</sup>襷<sup>たすき</sup>文銅鐸（桜ヶ丘4号銅鐸）  
桜ヶ丘遺跡（兵庫県神戸市）  
東京国立博物館写真提供



兵庫県 桜ヶ丘4号銅鐸  
兵庫県 桜ヶ丘5号銅鐸



伝香川県出土銅鐸  
谷文晁 旧蔵銅鐸  
銅鐸に描かれた鳥



人とコウノトリの足跡  
池島・福万寺遺跡（大阪府東大阪市・八尾市）  
（公財）大阪府文化財センター写真提供



弥生時代のコウノトリと人の共生  
早川和子画

## 古墳時代の鳥—魂を運ぶトリ—

『古事記』や『日本書紀』には、鳥にまつわる神話が多く記されています。例えば、天若日子<sup>あめのわかひ</sup>の葬儀は、サギ、スズメ、キジなどの鳥が執りおこないました。また日本武尊<sup>やまとたけるのみこと</sup>は、死後「白鳥<sup>しろとり</sup>」となって飛び去ったという記述も見られます。このように、鳥は葬送に深く関わっていたと考えることができるのです。

古墳時代に入ると、鳥形の埴輪が現れたり、石室に鳥の絵が描かれたりします。鳥には死者の魂を運んだり、あの世へ先導するなどの役割があったのでしょう。



ひきんもん  
飛禽文鏡  
若水古墳（兵庫県朝来市）  
兵庫県立考古博物館写真提供



死者を先導する鳥（模写）  
珍敷塚古墳（福岡県うきは市）  
『装飾古墳の世界』より

## 鳥形埴輪

埴輪で表現された鳥は、ニワトリとガン・カモ類などの水鳥がほとんど。実は、スズメやカラスなど人々の身近にいたはずの鳥は、埴輪には表現されていないのです。これは、ニワトリや水鳥が古墳における葬送のまつりの際に重要な役割を担っていたからと考えられます。

なお、ニワトリと水鳥の埴輪は、出現した時期や古墳での配置場所が異なります。つまり、鳥形埴輪の意味や役割は、鳥の種類ごとに違っていたのです。



動物形土製品  
蛭子山古墳群（京都府与謝野町）  
与謝野町教育委員会写真提供



水鳥形埴輪  
池田古墳（兵庫県朝来市）  
兵庫県立考古博物館写真提供



水鳥形埴輪の群れ（復元）  
今城塚古墳公園（大阪府高槻市）



1羽だけ置かれた鶏形埴輪（復元）  
今城塚古墳公園（大阪府高槻市）



水鳥形埴輪  
井手挾3号墳（鳥取県米子市）  
米子市教育委員会写真提供

### Topics 水鳥形埴輪

ガンやカモ類を模した水鳥形埴輪は、古墳時代中期（4世紀末）以降に出現します。その多くは、濠の中島や造り出しといった古墳の水際に置かれています。水鳥形埴輪は、渡り鳥が大空高く飛び去っていく情景から、死者の魂をのせてあの世へと運び去る姿を模したものと考えられています。

## 奈良・平安時代の鳥

この時代の遺跡からは、鳥の骨や鳥をかたどった製品が出土することは少なく、祭祀具や硯などに鳥が表現されている程度。出土資料から人と鳥との関わりを復元することは困難です。

絵画資料や文献からは、ニワトリやタカ、ウなどが飼育され、キジやカモなどが食用にされていたことがうかがえます。さらに、平安時代以降、宮中では闘鶏や鷹狩がおこなわれました。人々の生活が豊かになるとともに、鳥は娯楽の対象にもなっていたのです。



鳥形木製品  
小犬丸遺跡（兵庫県たつの市）  
兵庫県立考古博物館写真提供



鳥形瓶  
北浦横穴墓群（兵庫県豊岡市）  
豊岡市立出土文化財管理センター蔵



『年中行事絵巻』に見る闘鶏 東京国立博物館写真提供



鳥形代  
姫谷遺跡  
（兵庫県豊岡市）

## ● 中世・近世の鳥

中世以降、ヨーロッパや東南アジアからクジャクやブンチョウ、カナリアなど多くの種類の鳥が持ち込まれたため、人と鳥との関わりは一層多様化しました。

江戸時代になると、本草学や博物学が盛んになり、鳥の分類や生態などの研究が進むとともに、鳥に関する本も数多く出版されるようになりました。



ツルやスズメが表された和鏡  
豊岡市金剛寺  
豊岡市立出土文化財管理センター蔵

## ● コウノトリと豊岡市

昭和46年(1971)、日本で生息していた野生のコウノトリが死にました。これにより、日本の空からコウノトリは姿を消したのです。その最後の生息地が、豊岡市だったのです。

兵庫県や豊岡市では、コウノトリの野生復帰事業を進めています。平成17年(2005)には、人工飼育のコウノトリを自然界に放鳥し、平成25年2月現在61羽が全国の空を舞っています。また豊岡市では、コウノトリと共生したまちづくりにも力を入れています。コウノトリが住むことのできる豊かな環境は、人間にとっても住みやすい環境であるはず。さまざまな生物と人間がともに暮らす生物多様性の豊かな環境を創るために、コウノトリから学ぶことは数多くあります。皆さまも、生物にとってより良い環境について考えてみてはいかがでしょうか。



大空を翔るコウノトリ



湿地の中のコウノトリ

### ■ 記念講演会

#### 鳥と人の歴史物語

日時：3月23日(土) 午後1時30分  
講師：賀来孝代さん(毛野考古学研究所)  
会場：日高農村環境改善センター  
多目的ホール  
\*聴講無料、予約も不要です。

### ■ 館長講座

#### 銅鐸の鳥はコウノトリ！？

日時：5月4日(土) 午後1時30分  
講師：加賀見省一(当館館長)  
会場：但馬国府・国分寺館  
映像ホール  
\*入館料が必要です。予約は不要。

### ■ 学芸員講座

#### 古文献にみるコウノトリ

日時：4月13日(土) 午後1時30分  
講師：前岡孝彰(当館学芸員)  
会場：但馬国府・国分寺館  
映像ホール  
\*入館料が必要です。予約は不要。

## ● 第16回ミニ企画展「醤油鯛」

醤油鯛とは、お弁当やお寿司の折り詰めに入っている魚の形をした醤油入れのこと。醤油鯛の名付け親であり、収集歴25年のコレクターでもある、兵庫県立人と自然の博物館 沢田佳久さんのコレクションを紹介します。



会期：平成25年2月7日(木)～4月7日(日)  
協力：沢田佳久さん(兵庫県立人と自然の博物館研究員)  
(株)旭創業、(株)ランチャーム出石、(有)出石プラ成型  
\*ミニ企画展のみの観覧は無料です。

## ● 但馬国府・国分寺館 ご利用案内



- 開館時間 午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 毎週水曜日  
(祝日は開館し、翌日休館)  
12月28日～1月4日
- 入館料 大人 500(400)円  
高校生 200(150)円  
小中学生 150(100)円  
\* ( ) は20名様以上  
\* 県内小中学生は無料  
\* 65歳以上の方は半額

■ 最新情報はホームページもご覧下さい。  
<http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>



国分寺館キャラクター  
たじまる・くにひめ



ホームページ QRコード